

教材・支援機器活用実践事例(特別支援学校版)

実践年度・タイトル		平成(27)年度 PowerPointで歌おう踊ろう ～目で見てわかる音楽教材～
授業について	教科名等 (該当する教科名等を選択。当てはまらない場合はその他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input checked="" type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他( )
	単元・題材名	古き良き時代の歌
	授業の目標	<input type="checkbox"/> 曲に合わせて歌ったり、歌詞に合った表現をしりすることができる(歌唱) <input type="checkbox"/> 曲に合わせて楽器を鳴らすことができる(器楽) <input type="checkbox"/> 曲に合わせて全身を使って表現することができる(身体表現) <input type="checkbox"/> 曲や映像に注目して落ち着いて鑑賞することができる(鑑賞)
	観点別学習状況の評価の観点 (教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。)	■「知識・理解」 ■「技能」 ■「思考・判断・表現」 ■「関心・意欲・態度」 <input type="checkbox"/> その他( )
学習集団と子どもの実態	学校・学部・学年・人数	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 ■特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input type="checkbox"/> 小学生 ■中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない (1・2・3)年 (15)人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 ■知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 ■自閉症 ■情緒障害 ■LD(学習障害) ■ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子どもの課題 (特性・ニーズ)	■見る ■聞く ■話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 計算する <input type="checkbox"/> 推論する ■運動と姿勢 <input type="checkbox"/> 日常生活活動 ■不注意 ■多動性・衝動性 ■社会性・コミュニケーション ■覚える・理解する <input type="checkbox"/> その他  <input type="checkbox"/> 視覚的に伝えることで、授業全体の流れや曲の終わりに見直しをもつことができる。 <input type="checkbox"/> 視覚的に情報を提示することで、曲のイメージや楽器を鳴らすタイミングなどを理解することができる。 <input type="checkbox"/> 授業の始まりや題材の合間の待ち時間が苦手であるため、スムーズな授業展開が必要である。
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称と画像 (使用した支援機器・教材の名称を記載し画像を挿入。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。)	【ハードウェア】 <input type="checkbox"/> パソコン 【ソフトウェア】 <input type="checkbox"/> PowerPoint ・アニメーションの作成 ・スライドの投影
	活用のねらい	Aコミュニケーション支援( <input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(■B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(■C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援)  <input type="checkbox"/> PowerPointの活用 ・特に自閉症の生徒に対して授業内容や流れ、それぞれの曲の終わりまでの時間等について視覚的に伝えることで、見直しをもって授業に取り組むことができるようにする。 ・全ての情報を視覚的に確認できるように、授業の流れや歌詞などの情報をモニタに示すことにより、見直しをもって授業に参加することができるようにする。 ・ボタン一つで次の題材に進むことができるようにしたり、パソコンに取り込んだ曲再生できるようにしたりすることで、時間をかけずに次の教材の準備や片付けができ、生徒が待つ場面を少なくする。
授業に授お業ける展開支援	授業展開と画像 (授業の様子、ICT活用場面の画像を挿入。)	<input type="checkbox"/> 歌唱では、歌詞に合わせて歌詞や手話、振り付け動画を表示することで、歌うことが苦手な生徒が自信をもって歌えるようにする。 <input type="checkbox"/> 器楽では、曲のリズムに合わせて丸が落ちてくる動画を提示することで、楽器を鳴らすタイミングを視覚的に確かめられるようにする。 <input type="checkbox"/> 身体表現では、背景や表情など余計な情報が入っていない棒人間のアニメーションソフトで手本を示すことで、より注目できるようにしたり、理解の促進を図ったりする。 <input type="checkbox"/> 曲のイメージに合った内容の写真を演奏中にスライドショーで投影することで、曲のイメージを膨らませることができるようになる。 <input type="checkbox"/> 赤い四角が減っていくイマーを画面に示すことで、曲の終わりや展開に見直しもてるようにする  
	効果・評価	<input type="checkbox"/> 初めは一つ一つの動画への興味が強い生徒が多い状況であったが、3年間同じようにパソコンを活用して音楽の授業を行い、繰り返し取り組むことで授業の流れに見直しもてるようになった。 <input type="checkbox"/> 一部の生徒は、タイマーの意味を理解できるようになり、曲の終わりへの見直しをもって、大きな声で最後まで歌えるようになった。 <input type="checkbox"/> 歌詞カードなどの紙を貼ったりはがしたりなどの教材の準備に時間がかけず、スムーズに授業を展開できたことは、待ち時間に集中が途切れてしまう生徒への対応に効果的であった。 <input type="checkbox"/> 全てパソコン一つで授業が進行できるようにしたことは、ピアノによる伴奏ができるかどうかにかかわらず、誰が主担当として授業を進めても授業の質を損なうことなく進める上で有効であった。 <input type="checkbox"/> また、他教科においても、項目を変更して教材を作成・活用することで、自閉症の生徒など視覚的に情報を提示することが効果的な生徒に対して、授業の流れに見直しもてるようにする上で効果的であった。